

令和6年第4回大崎市議会定例会一般質問発言通告書

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
1	4	山田匡身	<p>1 一期生議員による令和5年度の提言のその後について</p> <p>(1) 近隣自治体と連携した運動施設の利用について</p> <p>(2) 大崎市として小児医療体制の充実について</p> <p>2 大崎市こども計画について</p> <p>(1) 現在の策定状況について</p> <p>(2) 策定に当たって今後の展開について</p> <p>(3) 課題解決の方向性について</p> <p>3 有機農業について</p> <p>(1) オーガニック農業の現状について</p> <p>(2) 地域ブランド化の可能性について</p>
2	6	法華栄喜	<p>1 一期生議員による令和5年度の提言のその後について</p> <p>(1) スポーツ, 芸術, 文化等の東北, 全国大会等へ出場する児童生徒(小中高生)に向けた助成金等, 支援の拡充に向けた進捗はどうか</p> <p>(2) 助成金の財源として自動販売機の行政財産の貸付けやネーミングライツによる財源確保を提案してきたが, その進捗はどうか</p> <p>(3) 部活動の活動場所の整備や施設利用の優先度, 土日の部活動地域移行に向けた指導者確保の状況はどうか</p> <p>(4) 子どもたちのクリエイティブな思考を育み, 大崎市の文化, 芸術, 音楽のボトムアップを図る取組の進捗はどうか</p> <p>(5) 遊休不動産活用の進捗について</p>
3	11	佐藤仁一郎	<p>1 地域自治組織の推進体制について</p> <p>(1) 市民協働における, 本庁部局とまちづくり協議会や地域づくり委員会等との連携強化状況について</p> <p>(2) 地域活性化に向け, 取り組む地域づくり委員会への交付金を増額する考えはないか伺う</p> <p>2 公設集会所の方向性について</p> <p>(1) 大崎市公共施設等総合管理計画個別計画に基づき, 公設集会所の地元移管の方向性が示されているが, その進捗状況を伺う</p> <p>(2) 修繕の要望にどう応えるのか伺う</p> <p>3 みんなで取り組む減災対策について</p> <p>(1) 多面的機能支払い交付金事業への申請状況と今後の方向性を伺う</p> <p>(2) 田んぼダムの取組状況を伺う</p> <p>4 公園管理について</p> <p>(1) 市内各所に存在する公園の木々が害虫に侵され, 枯死したものも見受けられる。早々に対策を講じるべきであるが, 所見を伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
4	20	遊佐辰雄	<p>1 宿泊税導入問題への対応について</p> <p>(1) 宿泊事業者等の理解がいまだに得られていないので、導入を思いとどまらせてはどうか</p> <p>2 生活困窮者支援事業の充実強化について</p> <p>(1) 物価高騰の折、福祉灯油支援の実施について、既に岩手県は各自治体と併せて実施することになった。大崎市でも実施すべきではないか</p> <p>(2) 年金や生活保護費は物価上昇に見合っていないのではないかと。よって、支援が必要と思うがどうか</p> <p>(3) 重点支援地方交付金を活用して、教育費の負担軽減を図ることについて</p> <p>3 鬼首地区拠点施設の整備見直しについて</p> <p>(1) 鬼首地区拠点施設の進捗状況と整備等の見直しについて</p>
5	25	小沢和悦	<p>1 生活困窮者支援事業の充実強化について</p> <p>(1) 松阪市は市内8か所に福祉まるごと相談室を設け、自立支援課の隣に就労広場を置き、ハローワーク職員2名が常駐し実績を挙げているが、大崎市でも可能なのではないかと</p> <p>(2) 本年4月から相続登記の義務化が法制化されたが、生活困窮世帯の登記手続き費用がなく期限内に登記しなかった場合、10万円以下の過料が科される。そうした市民を救済する対策について</p> <p>2 地元農業と農村集落を本気で守る対策について</p> <p>(1) 農業に希望が湧き、離農を思いとどまり、若者が就農したくなるような国の農林業予算確保（現状の2倍以上）に向けた行動について</p> <p>(2) 食料・農業・農村基本法に基づく基本計画に、大崎市の地域計画の推進を担保できる計画を盛り込ませる行動について</p> <p>(3) 新鶴巻への地域拠点施設構想について</p> <p>3 少子化対策について</p> <p>(1) 三重県津市では、出会い支援事業に若手市職員がプロジェクトチームをつくり取り組むなど、様々な目標を達成する素晴らしい成果を上げている。大崎市でも学んで取り組んではどうか</p> <p>4 人材確保対策について</p> <p>(1) 大崎市の人材確保対策と奨学金返還支援制度活用の考えについて</p> <p>5 震災復興まちづくり計画に位置づけた事業の検証について</p> <p>(1) 七日町西地区市街地再開発事業のその後について</p>
6	12	八木吉夫	<p>1 財政について</p> <p>(1) 多くの市民から経済団体の充実強化は必要不可欠であり、補助金や事業費が削減されたり、職員の削減等はあると叫ばれているが、所見を伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
7	16	相澤久義	<p>2 産業振興策について</p> <p>(1) 商店街の活性化に向けた対策の充実について伺う</p> <p>(2) 世界かんがい施設遺産に認定された中山平地区の南原穴堰の利活用策について伺う</p> <p>1 世界農業遺産 大崎耕土から世界へ羽ばたけ「ささ結」について</p> <p>(1) 令和5, 6年産東北194号の集荷量は</p> <p>(2) (1)のうち、ささ結として出荷したのは何トンか。比率は</p> <p>(3) 等級の割合は</p> <p>(4) ささ結の海外輸出を考えているか</p> <p>(5) (4)を考えた場合、輸出を含め何トン、耕作面積で何ヘクタール必要か</p> <p>(6) 現在東北194号はJA一括集荷になっているが、近年の米集荷を見ると地域によっては50%以上が民間業者に流れている。民間業者参入の考えはあるか、参入できない場合、その理由は食管制度廃止後、平成15年の冷害を除いて、30数年ぶりにJA概算金が採算性が取れる16,000円を超えとなったが、ささ結1等米は60キログラム当たり概算金16,000円+奨励金330円からJAの手数料を引くと16,198円である。ひとめぼれ1等米は60キログラム当たり概算金18,900円で手数料132円を引くと18,768円となり、60キログラム当たりひとめぼれとの差額が2,570円となり、10アール当たりの収量8.5俵510kgとすると21,845円、1ヘクタール約220,000円の差が生じている。</p> <p>また、民間業者の11月末現在、ひとめぼれの価格は60キログラム当たり25,000円で手数料はない。ささ結と比較すると60キログラム当たり8,802円、10アール8.5俵510キログラムで74,817円、1ヘクタール約750,000円の差がある。</p> <p>慣行栽培米と環境保全米の収量は約60キログラムほどの減収が見込まれるため、生産者はひとめぼれ作付けを選択するのではないか。ささ結を推奨する大崎市としてどう推進していくのか、所見を伺う</p> <p>(7) 7年産米ささ結生産拡大に向け、高付加価値米支援金10アール当たり20,000円以上の支援を今後も継続的に続けるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>2 宮城県立古川支援学校教育環境整備について</p> <p>(1) 近年、児童生徒数の増加が続いている古川支援学校は狭隘な敷地の中で教育を受けている。</p> <p>旧志田小学校跡地が古川支援学校に提供され、狭隘な環境は改善されると思われるが、教育環境の整備が大切と考える。</p> <p>児童生徒の8割が大崎市内で、生活介護を必要とする生徒だけではない。時間をかけ職業訓練で技術を身につけられる場が必要であり、施設だけに頼らず県が</p>	

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
8	17	木村和彦	<p>積極的に取り組むことが大切と考える。そこで、廃校予定の大崎高等技術専門校を全国初の支援学校（大学部）設置に向けて大崎市役所、全ての部、課をあげて、県、国へ働きかけをするべきと考えるが、所見を伺う</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 市営墓地と斎場跡地の利用について <ol style="list-style-type: none"> (1) 新斎場建設後の現在利用中の斎場跡地の利用計画は <ol style="list-style-type: none"> ア 市民要望がある市営墓地の現状は イ 斎場跡地の今後の利用計画は ウ 新斎場周辺整備について、計画はないのか 2 大崎市の財政状況と見直しについて <ol style="list-style-type: none"> (1) 大崎市の財政状況 <ol style="list-style-type: none"> ア 103万円の壁について イ 年金支払い停止条件の見直し ウ 市の財源確保 3 太陽光発電の指導について <ol style="list-style-type: none"> (1) 農振地域の太陽光発電の発電施設設置の判断基準 (2) 農業委員会の設置許可の判断と県の判断の相違は (3) 開田などの維持管理が困難な土地の農振地域指定解除の考え方
9	13	佐藤講英	<ol style="list-style-type: none"> 1 「食料・農業・農村基本法」改正と本市農業政策について <ol style="list-style-type: none"> (1) 食料・農業・農村基本法の改正の主な点について (2) 令和7年3月に新食料・農業・農村基本計画が決定される改正点について (3) 本市の第2次産業振興計画後期計画の誇りある農業への影響について (4) 高付加価値化米づくり支援事業の成果と課題について (5) 大崎耕土ささ玉決定戦におけるささ結と販売戦略について (6) ささ結のさらなる作付け転換と生産拡大対策について (7) 子実用とうもろこし播種機導入支援事業や畜産飼料価格高騰対策支援事業の成果と課題と対策について (8) 肥料価格高騰対策緊急支援事業の成果と課題と対策について
10	5	加川康子	<ol style="list-style-type: none"> 1 指定管理者制度について <ol style="list-style-type: none"> (1) 指定管理者制度導入施設における利益還元に関する本市の現状を伺う (2) 指定管理者の経営努力の動機づけとして、インセンティブの設定や自主事業への柔軟な判断などの工夫を検討してはどうか (3) 指定管理者制度を導入していない施設（公園等）について、今後の制度導入の考えを伺う 2 一期生議員による令和5年度の提言のその後について

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
11	10	鹿野良太	<p>て</p> <p>(1) 学校教育の充実の一つとして提言した、令和の日本型教育の推進に関する進捗はどうか</p> <p>(2) 現状の課題及び解決に向けた取組と具体的なスケジュールを伺う</p> <p>1 改正広域的地域活性化基盤整備法と本市の空き家問題について</p> <p>(1) 二地域居住に対する本市の考え方を伺う</p> <p>(2) 11月から施行された改正広域的地域活性化基盤整備法に関して宮城県の動きはあるのか。また、本市の改正法に対する対応状況を伺う</p> <p>2 金融リテラシーと金融経済教育について</p> <p>(1) 令和元年第2回定例会の一般質問で金融リテラシーの充実を取り上げ、金融経済教育の普及や充実が図られるよう検討すると答弁をいただいている。既に5年が経過しているが、本市における市民の金融リテラシーの現状と金融経済教育の進捗を伺う</p> <p>(2) 令和6年4月に設立された金融経済教育推進機構の活用を視野にさらなる普及に取り組んではどうか伺う</p> <p>3 市内小中学校における教員の働き方改革について</p> <p>(1) 文部科学省では令和6年8月に教師を取り巻く環境整備推進本部が設置され、教師を取り巻く環境整備総合推進パッケージが取りまとめられた。来年度に向けて本市教育委員会はどのように取り組んでいく方針か伺う</p>
12	18	横山悦子	<p>1 不登校児童生徒の支援について</p> <p>(1) 本市の不登校の現状と原因、課題について伺う</p> <p>(2) 学校内外の機関等で専門的な相談、指導等を受けていない児童生徒の現状について伺う</p> <p>(3) 不登校児童生徒のうち、民間団体事業者等との連携とオンライン学習やフリースクール等への出席認定について</p> <p>(4) インターネット上の仮想空間メタバースを利用した居場所づくりとオンラインを利用した学習支援の取組について</p> <p>(5) 一人1台端末を利用し、子どもの心や体調の変化の早期発見にICTを活用した取組について</p> <p>(6) 一人一人にあった柔軟な学びの場（校内スペシャルサポートルーム等）の取組について</p> <p>2 中学校修学旅行費の無償化について</p> <p>(1) 子育て世代の経済的負担軽減のため、中学校の修学旅行費の無償化について</p> <p>3 子ども家庭センターについて</p> <p>(1) 子ども家庭センターの設置が努力義務化されたことを受けて、基本方針、独自性の取組や関係機関との連</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
13	21	只野直悦	<p>携について</p> <p>(2) 子育て世代包括支援センターと子ども家庭総合支援拠点の2つの機能が改正児童福祉法により統合されるが、職員の配置と職員の資格、教育について</p> <p>(3) 子ども家庭庁の政策に沿った形で見直しや強化を図るポイントは何か。既存の支援策にどのような改良や拡大を行うのか伺う</p> <p>(4) 経済的困難や家庭環境に課題を抱える子どもの支援策について何が必要かと思ひ政策につなげるのか</p> <p>(5) 支援の向上のため、各関係機関との協力体制の構築について</p> <p>4 高齢者に寄り添った共生社会について</p> <p>(1) 認知症ケア技法であるユマニチュードの普及について</p> <p>(2) 軟骨伝導イヤホン活用で難聴者に優しい窓口に</p> <p>5 HPVワクチンのキャッチアップ接種について</p> <p>(1) 対象者への周知、広報について</p> <p>1 地域で支え合い、心がかようまちづくりについて</p> <p>(1) 令和6年3月に策定された第4次障がい者計画の基本理念である「地域で支え合い、心がかようまちづくり」の推進における現状認識について</p> <p>(2) 第7期障がい福祉計画の基本理念に基づく推進について</p> <p>ア 第7期障がい福祉計画の必須事業である地域生活支援事業における地域活動支援センター事業の現状と課題について</p> <p>イ 直営で運営している地域活動支援センター事業を令和7年度末で廃止の方針と聞くが、そこに至る経緯について伺う</p> <p>2 食品ロス削減対策について</p> <p>(1) 本市における食品ロス削減対策の取組の現状と課題について</p> <p>ア 宮城県の削減目標における本市の目標と削減対策の現状について伺う</p> <p>イ フードドライブの取組推進の考えは</p> <p>ウ 今後における課題をどう捉えているのか伺う</p> <p>(2) 残さず食べよう30・10運動の現状と課題について</p> <p>ア 定着のための今後の課題をどう捉えているのか伺う</p>
14	7	石田政博	<p>1 一期生議員による令和5年度の提言のその後について</p> <p>(1) 市有休閑地のポケットパークとしての活用について、財源確保や既存計画との関連を踏まえて進めるとの回答をいただいているが、リストアップし優先順位は決めたか</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			(2) 子どもたちの文化、芸術、音楽、歴史に関する教育活動の進捗は (3) 上記において、大崎市や宮城県出身者の公演、講演をもっと取り入れてはどうか 2 財源確保施策について (1) 市有林の伐採計画 (2) ふるさと納税の増額策 (3) 遊休市有地の活用策 3 スクールバスの運行見直しについて (1) 岩出山地域の現状の課題を把握しているか (2) 校庭乗り入れの準備はできたか伺う 4 環境基本条例の強化について (1) 岩出山浦小路地区に計画されている250キロワットの太陽光発電計画について、大崎市の対応状況を伺う (2) 世界農業遺産、世界かんがい施設遺産を形成する内川について、景観、環境について条例の強化による保全措置が必要と思うが、いかがか 5 103万円の壁撤廃の影響について (1) 税収減の大崎市としての試算は (2) 対応策は
15	1	藤本勘寿	1 一期生議員による令和5年度の提言のその後について (1) 若い世代向けへのプロモーションの改善点 2 事業の効率化とやめる判断について (1) 令和6年度末決算の着地見込みの検証と今後の予算編成方針 (2) 事業の効率化とやめる判断における部長級の役割
16	15	中鉢和二郎	1 商工業育成対策事業は十分かについて (1) 令和5年度の成果表によれば、同事業の目的は「中小企業、小規模企業者の支援を行う商工団体の活動や企業の販路拡大、新技術開発等の経費の一部に対して補助金を交付することにより、企業の経営安定化を図る。」となっているが、昨今の中小企業等の経営課題は、「販路拡大と新技術開発」だけではなく、合理化、省人化、自動化及び情報化並びに商品やサービスの多様化や高度化等と多岐にわたっている。また、諸物価の上昇により何をするにも以前より大きな投資が必要であり、現在の補助金の要綱では中途半端で、本当に事業者の役に立つ使い勝手が良いものであるか疑問が残る。 そこで、新年度予算編成に当たり、事業内容、特に補助要綱の抜本的な見直しや新たな補助金の創設について所見を伺う 2 宿泊税と新時代の観光振興について (1) 宮城県の宿泊税が現実のものとなった。 村井知事は、まずは宿泊税制度を構築することが先

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
			<p>で、どう使うかは今後よく考えたいと述べていたが、大崎市として、どのような施策に宿泊税を充当していくかしっかりと意見を述べるべきと考えるが、今後どのようなアクションを大崎市として考えているか、所見を伺う。</p> <p>また、県の事業として宿泊税の充当事業を行っていただくことも大切だが、譲与税として財源移譲をお願いし、大崎市として宿泊税充当事業を独自に行うことも考えられるが、所見を伺う</p> <p>3 半導体関連産業の誘致体制構築について</p> <p>(1) P S M Cの大衡村への誘致話は、一旦消滅してしまったが、S B Iホールディングスと村井知事は、次なる展開を匂わせている。</p> <p>確かに、仙台北部中核工業団地群は、ポテンシャルが高く、国が進める次世代半導体の産業集積の次なる拠点として有望だ。</p> <p>そうした展開を想定したときに、本市において関連企業の誘致を強力に推し進められる適地があるかを見渡せば、他の自治体と比べてより魅力的な工場用地はないように思われる。</p> <p>この機に乗じてしっかり企業、工場誘致を進めるためには、多少のリスクは覚悟の上で、条件の良い場所に十分な受け皿と成り得る優良な工業団地を早急に整備すべきと考えるが、所見を伺う</p>
17	14	佐藤弘樹	<p>1 職員人財育成について</p> <p>(1) 人財育成基本方針のうち、課題解決に向けて自ら政策提言できる職員の達成率はどうか</p> <p>(2) 職場を離れている職員並びにメンタルヘルス不調の職員数と対応状況は</p> <p>(3) 会計年度任用職員の国基準を踏まえた待遇改善状況は</p> <p>2 教育環境について</p> <p>(1) 学校給食センター整備における、古川中央部・古川北部・鳴子温泉地域の進捗は</p> <p>(2) 学校給食における、地場産給食の日、和食の日、ふるさと給食の日（和牛給食）の実施状況と成果は</p> <p>(3) 学校図書館図書標準の達成率と計画的な蔵書への考えは</p> <p>3 移住定住支援について</p> <p>(1) 移住定住を促進する具体的な取組状況は</p> <p>4 動物愛護について</p> <p>(1) 市民協働事業の実施を踏まえ、動物愛護の理解を深めるための広報及び周知への考えは</p>
18	2	小嶋匡晴	<p>1 一期生議員による令和5年度の提言のその後について</p> <p>(1) 大崎広域をはじめとした近隣自治体との施設やイベ</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
19	3	小玉仁志	<p>ント開催等の連携, 周知広報の提言後の進捗について</p> <p>(2) 近隣自治体の施設の利用促進と連携方法の今後の戦略について</p> <p>(3) 市役所職員の育成 3 提言の現状について</p> <p>(4) 今後の職員育成の具体的な取組について</p> <p>2 子どもたちへの切れ目のない支援の取組について</p> <p>(1) 切れ目のない支援の取組状況について</p> <p>(2) 切れ目のない支援の課題について</p> <p>(3) 切れ目のない支援に向けての所管間の連携について</p> <p>(4) 切れ目のない支援と大崎圏域の小児科医の充足率について</p> <p>1 一期生議員による令和 5 年度の提言のその後について</p> <p>(1) スポーツや文化の応援体制について, 提言後の具体的なプランとアクションは実施されたのか</p> <p>(2) 本分野の将来的な視点について</p> <p>(3) 今後の具体的な戦略について</p> <p>2 大崎市教育基本方針について</p> <p>(1) 基本方針で育まれる児童の具体的な人物像とは</p> <p>(2) 基本方針に基づく施策の進捗及び評価について</p> <p>(3) 将来構想の視点, 達成に必要な機能や投資の考え方</p> <p>3 障がい者雇用の現状について</p> <p>(1) 本市におけるダイバーシティの考え方と取組について</p> <p>(2) 市役所における法定雇用障がい者数の状況及び達成に向けた課題について</p> <p>(3) 今後の具体的な解決策について</p>
20	8	早坂 憂	<p>1 大崎市の子育て環境について</p> <p>(1) 子育て世代からは「大崎市は子育てがしにくい」という声を多く聞く。公園等の安心安全な遊び場が少ないこと, 日曜・祝日の夜に預かり保育を利用するのが難しいこと, 利用料が高いことなど, 様々な意見があるほか, 大崎市にこのまま残って子どもを育てる理由がない, という意見もある。大崎市で子育てをしたいと思ってもらえるようにするために, 今後どのような施策を実施していくのか, 所見を伺う</p> <p>(2) 宮城県市議会議長会主催の議員研修会の講演で, 建設課が子育て世代と話し合い, 公園の在り方について議論した結果, 市民ニーズに合致した公園整備が果たされたという内容を伺った。大崎市子ども計画の中間案が民生常任委員会で示され, パブリックコメントも行われているが, まさに子育てのニーズを全庁的に捉え, 各課が子育てに特化した取組を行っていくべきと考えるが, これまでどのような議論が行われてきたのか。そして, これからどのような議論を重ねていくのか, 所見を伺う</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項
21	23	氏家善男	<p>(3) 育児休業制度について、特に父親の制度利用が進んでいないのではないかという声もある。民間の制度利用を進めるためにも、行政から制度利用を促進して啓発するべきと考えるが、大崎市職員の制度利用状況について伺う</p> <p>2 介護人材確保策について</p> <p>(1) 東京都武蔵野市では、介護保険サービスを提供する事業者から推薦された、15年以上働く介護・看護職に従事する武蔵野市民を対象として表彰を行っている。介護人材の確保へ向けて、大崎市でも表彰制度を取り入れるべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>(2) 令和6年6月から、処遇改善加算の制度が一本化され、加算率が引き上がったが、市内介護事業者の申請状況について伺う</p> <p>(3) 介護従事者の離職率は、2014年から2023年の10年間で3.4%低下しているとのことだが、勤続3年未満の離職が6割を超え、小規模の事業所ほど離職者の勤続年数が短い傾向となっている。大崎市内の離職率は把握しているのか。また、介護職の魅力を伝えるために、市内小中学校での課外授業として介護体験を取り入れたり、介護従事者から話を聞く時間を設けることも、将来の人材確保と離職率の低下につながる取組と考えるが、所見を伺う</p> <p>3 おおさき子どもサミットについて</p> <p>(1) おおさき子どもサミット2024が11月26日に開催された。今回も多く素晴らしい意見が出たが、改めて所見を伺うとともに、子どもたちから出された意見はどのように集約され、今後の政策に活かされていくのか</p> <p>(2) 意見発表では米フェスや廃校利活用、陸羽東線の活性化、観光振興、スポーツイベントや清掃イベントの開催など、夢のある提案がたくさんあった。それぞれの意見を所管する担当課の若手職員と子どもたちの意見交換の場を設け、実現に向けた取組とキャリア教育の場を作るべきと考えるが、所見を伺う</p> <p>(3) 今回は台東区立平成小学校との意見交換が実施されたが、今後も各姉妹都市の小学校との交流を行っていくのか</p> <p>1 土地改良事業について</p> <p>(1) 土地改良事業に関して本市は、かんがい排水施設や区画整理等に補助金を交付し、農家の支援を行っている。現在、老朽化によるかん水施設の更新等を余儀なくされ、農家にとって大きな負担が生じている。現在の条例では、10%の補助率にとどまっているが、補助率の引上げができないものか伺う</p> <p>(2) 補助の適用となる面積がかんがい施設の場合、受益面積がおおむね10ヘクタール以上となっており、こ</p>

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
			<p>の規則は平成18年3月31日より施行となっている。合併前の岩出山町補助金交付規則はそうではなかったが、10ヘクタール以上とした経過について伺う</p> <p>(3) 中山間地は10ヘクタール以上という基準では、補助対象にならない地区や水利組合が多く存在すると考えられる。基準の引下げや撤廃すべきと思うが、所見を伺う</p> <p>2 ささ結の販売戦略について</p> <p>(1) ささ結は寿司用に適した米として人気がある。もともとは東北194号という品種であり、ささ結という名称で出荷するわけではない。194号の愛称ということなのか。ほかのひとめぼれ、つや姫等と同じくなぜささ結として出荷できないのか</p> <p>(2) 県全体としての東北194号の数量を確保しないと市場での競争に勝てない。名称も含め統一した販売戦略を打ち出すことが栽培規模の拡大につながると考えるが、所見を伺う</p> <p>3 岩出山観光栗園の再開について</p> <p>(1) かつて岩出山観光栗園が子ども連れの家族でにぎわった。現在では樹木の老木化により観光栗園も閉園の状況が続いている。インバウンドによる観光客の誘致等も良いが、地域の特性を生かした観光の推進も重要ではないかと考える。岩出山地域は市有林も多く、その活用と親子で触れ合える地域の特徴を生かした観光栗園の再開を望むものであるが、所見を伺う</p> <p>4 吉野川河川改修促進について</p> <p>(1) 岩出山真山地区を流れる小山田川水系吉野川は、県管理の一級河川である。近年における地球温暖化の影響で、大崎市内では7年間で3度の水害を受けるなど大きな災害を防ぐための対策を進めている。一方で、中小河川である河川については目が向けられていないのが現実ではないか。この吉野川は上流部と下流部において、河川改修や災害復旧等により河川が整備されてきた。しかし、中流部である区間については手つかずの状況が続いており、農地への氾濫や河川堤防の侵食が続いている。市道冠水や家屋への床下浸水も過去にあり、河川改修の要望が強い。県管理の河川ではあるが、一日も早い改修工事に向けて市として働きかけていただきたいと思うが、所見を伺う</p> <p>5 岩出山小学校校庭へのスクールバス乗り入れについて</p> <p>(1) 現在、児童生徒のスクールバスは校舎に近い駐車場での乗降となっている。そのため、乗降場に近い食堂へトイレを借りに行く児童が後を絶たなく、迷惑をかけている状況にある。教育委員会では駐車場へのトイレの設置については、難色を示していることからスクールバスの校庭への乗り入れについて、児童の安全策を講じた上で実現の可能性について伺う</p>	

発言 順	議席 番号	氏 名	発 言 事 項	
22	27	鎌内つぎ子	<p>1 介護人材確保の支援策について</p> <p>(1) 武蔵野市で介護人材確保・定着支援策を実施しているが、本市でもできないか</p> <p>(2) 人材確保や育成の発展に寄与することを目的とするケアリンピック事業の実施について</p> <p>2 介護事業所への支援について</p> <p>(1) 訪問介護報酬引下げに対する処遇改善について</p> <p>(2) 世田谷区で高齢者施設への緊急安定経営事業者支援給付金の支給を決めたが、本市でも取り組めないか</p> <p>3 高次脳機能障がい者に対する就労支援について</p> <p>(1) 障がいがあっても働きたい方への支援について</p> <p>4 おおさき市民健診について</p> <p>(1) がん検診にすい臓がんを追加対象にできないか</p> <p>5 イベントへの支援について</p> <p>(1) 民間、団体が行っている各種イベントへの支援について、所見を伺う</p>	